

教育次長

本市は、「英会話教育特区」の認定に基づき、平成17年度からすべての小学1年生から6年生に対して、年間15時間から40時間の英会話学習を実施している。その結果、低学年では英語でのあいさつやゲーム、高学年では自己紹介や簡単な日常会話ができるなど、成果が上がっているものと考えている。特に小学校低学年からの英語教育の取り組みについては、本市の大きな特色の1つであると考えられ、その実践によりコミュニケーション能力の素地を養うなどの目的は達成できていると考える。今後、国に先行して実践を積み重ねてきた小学校英語教育のさらなる充実と、中学校における英語教育推進事業の確実な実施など、小中の連携を重視した英語教育を推進していきたいと考えている。



▲英語授業の風景

問

平成26年4月に行われた全国学力テストの調査結果が公表されるとのことだが、学校別成績も公表可能とされている。本市教育委員会としては、公表についてどのように考えているのか。また、調査結果をどのように検証していくのか聞きたい。

教育次長

調査結果の公表については、児童生徒の学力の一部分であることや、学校間の序列化、過度な競争が生じないようにすることなど、効果や影響等に十分配慮しなければならぬとされていることから、本市においては学校別成績の公表は難しいと考えている。また、調査結果の検証については、教科ごとの傾向や課題等について教育研究所を中心に分析を行っている。これらの把握された課題を受け、学習指導方法の工夫改善に努めるほか、本市独自の「テストバッテリー調査」などの調査結果を総合的に検証し、児童生徒の学力向上に向けて努力していきたい。

問

市道鹿島町1号線が拡幅整備されたが、その延長する市道は幅員が狭隘である。また、県道下のアンダー箇所は極端に狭く危険であるため、早期の改修整備が必要と思うが今後の対応を聞きたい。

都市建設部長

市道鹿島町1号線などの渡良瀬川堤防上の道路については、足利赤十字病院付近の延長約1.6キロメートルの区間の整備が完了している。一方、完了区間から西側は、歩道が未整備で幅員が狭隘な

病児・病後児保育施設の増設を！



綾 大島 議員

状況であり、拡幅の必要性は十分認識している。当該区間の整備には沿道に家屋等があることから、多大な事業費を要し、アンダー部分の拡幅については、県道の交通を確保しながら工事を実施しなければならぬことなど、大きな課題がある。現在、厳しい財政状況の中で、市道鹿島山下通りの立体交差事業を初めとした大型事業を実施していることから、今後その完了時期を見据えた中で研究していきたい。

問

安倍内閣が「成長戦略」に女性の力を盛り込み、経済成長を促そうとしている今、女性が働きやすい環境づくりが求められている。必要な支援を必要の方に提供できるように働く女性の子育て支援策として、本市における病児・病後児保育施設の増設が必要ではないかと考えるがどうか。

福祉部長

病児・病後児保育施設については、1人以上の看護師等の配置や、専用保育室の設置、医療機関との連携体制を整えることなどの実施要件がある。これらを確保することは難しい状況ではあるが、市民ニーズを考慮しながら施設の増設について研究していきたい。

金子 裕美 議員

○市長の政治姿勢について  
・子育てに関する考え方  
○子育て支援について  
・子ども・子育て支援新制度  
・放課後児童クラブ  
・足利市保育所整備後期計画  
・子どもの権利条例  
・足利市子ども発達支援センター

尾関 栄子 議員

○平和都市宣言をもつ足利市として  
・平和を愛し、平和を求める市民の暮らし  
○安心できる医療・介護保障のために  
・市民を守る自治体の役割  
○地域経済を活性化させるために  
・市民の生業、雇用創出

問

本市を訪れる観光客に「来て良かった」「また来てみたい」と思ってもらえるような「足利市民総ぐるみおもてなし運動」を起し、市民全体のおもてなし意識の向上を図るべきと考えますがどうか。



**産業観光部長**

観光のまちづくりを進めるためには、市民の理解と協力が不可欠である。また、観光客にとって、訪れた地域の人々から受けた心のこもった「おもてなし」こそが、最も記憶に残るものの1つであり、それが多くのリピーターへとつながるものと考えている。そこで、1人でも多くの市民に、観光客に対する「おもてなしの精神」を理解し、実践していただけるよう研修会や講演会を開催するなどの啓発活動を行いたい。また、足利市観光協会とも連携し、観光資源やイベントなどの情報発信を強化していきたい。この取り組みを通して観光客を増やし、市民から「おもてなし運動」の機運が高まるよう努めていきたい。

**問**

本市では、いじめの問題解決や未然防止に向け、臨床心理士の方を「いじめストップアドバイザー」として配置している。いじめ撲滅のためには、アドバイザーを増員し、現場のニーズに応じた複数体制での取り組みが必要ではないか。



**教育次長**

いじめストップアドバイザーの増員については、県の事業である「いじめ・不登校等対策チーム」との連携を含め、必要性について検討していきたい。

**「映像のまち」構想について問う」**



横山 育男 議員

**問** 「映像のまち」構想の第1弾として、映画「バンクーバーの朝日」の撮影が本市で行われた。撮影に使用されたロケ地の今後の活用について聞きたい。また、完成した映画をぜひ本市で上映していただき、さらに出演者の舞台挨拶等もお願いしたいが、どのように映画の配給会社と折衝しているのか。

**政策推進部長**

撮影に当たり設置されたロケセットは映画の制作会社が設置したものであり、撮影終了後の管理・活用等についても同様の取り扱いになっている。しかし、市民からもロケセットを見学したいという意見も多いので、ロケセットの公開に向け、制作会社に積極的にアプローチしていきたい。また、この映画は市を挙げてサポートした作品であることを強調して、本市における上映会が実現できるよう配給会社と折衝していきたい。

**問**

4月に発表した県町・羽刈町地内約20ヘクタールの新産

業用地について、土地開発の進捗状況を知りたい。また、本市南部における開発の最適地は、やはり国道50号沿線であると思う。同時進行として同地の開発に向けた作業も進めるべきと考えるが、所見を聞きたい。

**産業観光部長**

県町・羽刈町地内における新産業用地の開発については、現在、関係法令に基づき手続きを進めているところである。当面は、いまだ低迷が続く経済状況を打破する1つの方策として、新産業用地の造成及び企業誘致に全力で取り組みたい。また、国道50号沿線の開発については、都市計画法や農地関連法で多くの課題があるが、交通アクセスにおいては非常に便利な場所であるので、引き続き研究していきたい。

**問**

若者向け観光誘客の一環として、織姫神社を「恋人の聖地」へ登録することを提案した。登録に向けた進捗状況を聞きたい。

**産業観光部長**

「恋人の聖地」の認定制度は、NPO法人地域活性化支援センターが展開し、全国の観光地域の中からロマンティックなスポットを「恋人の聖地」として選定して、地域の新たな魅力づくりや地域間の連携による地域活性化に貢献しようとする事業である。現在、足利市観光協会が地域活性化支援センター事務局や足利織姫神社奉賛会と申請に係る諸調整を行っている。選定委員会では年4回程度開催されるので、スピード感を持って手続きを進めていきたい。



▲7月1日に足利織姫神社は「恋人の聖地」に認定されました



**放課後児童クラブの今後を問う！**



金子 裕美 議員

**問** 子ども・子育て支援新制度の中で、放課後児童クラブの基準や運営に関しては市町村ごとに新たに条例で定めることとなる。それに先立ち厚生労働省令で最低基準が示されたが、基準を満たしていない施設はどのようなのか。また、専用区画面積や適正人数の基準を満たしていない施設が、長期休業時だけでも学校の空き教室を利用できないか。